

富 監 第 89 号
令和2年10月29日

富田林市喜志財産区管理者
富田林市長 吉 村 善 美 様

富田林市監査委員
中 川 元
花 岡 秀 行
田 平 ま ゆ み

令和元年度富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により、審査に付された令和元年度富田林市喜志財産区特別会計歳入歳出決算（事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書）及びその他付属書類について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

令和元年度 富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見

第 1. 審査の対象

令和元年度 富田林市喜志財産区特別会計決算

第 2. 審査の期間

令和2年8月26日から令和2年9月29日

第 3. 審査の方法

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が関係法令の規定にしたがって作成されているか、また、決算計数が正確であるか等を確認するため関係諸帳簿及び証拠書類を照合し、併せて予算の執行が適正かつ効果的に行われているかどうかを主眼として審査した。

第 4. 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成され、決算の計数も関係諸帳簿及び証拠書類と符合し正確であり、本年度の決算を適正に表示していることを認めた。

第 5. 決算総括

喜志財産区特別会計歳入決算額は7,659,587円、歳出決算額は7,659,587円で歳入歳出差引額は0円である。歳入では主に財産収入と繰越金が減少し、歳出では選挙費が増加したが総務管理費の減少により、前年度に比べ歳入・歳出ともにそれぞれ389千円(4.8%)の減少となった。

公有財産においては、寄付の受領により土地が増加した。これは、堤の滅失により、財産区所有のため池と一つの池を形成している隣接のため池であったことから、一体的な管理をする必要があるため、財産区財産としたものである。

喜志財産区は所有する財産の管理等について、今後も引き続き地方自治法第296条の5第1項の主旨に則り、財産区住民の福祉の増進を図るとともに、市との一体性を損なうことのないよう努められたい。また、財産区財産について、常に良好な状態を維持すべく適切にこれを管理し、その目的に応じた最も効果的な財産区事業の運営に取り組まれることを望むものである。

第 6. 収支の状況

1. 歳 入

決算額は7,659,587円で、前年度(8,048,349円)と比較すると388,762円の減少となり、予算現額に対する収入率は46.6%である。各款別における歳入の状況は表1のとおりである。

[表 1] (単位:千円・%)

区 分	元年度			30年度 決算額	増 減	前年度比
	予算現額	決算額	収入率			
使用料及び手数料	8	7	87.5	8	△ 1	87.5
財 産 収 入	4,017	4,016	100.0	4,170	△ 154	96.3
繰 入 金	12,426	3,636	29.3	3,662	△ 26	99.3
繰 越 金	0	0	0.0	208	△ 208	皆減
諸 収 入	1	0	0.0	0	0	-
計	16,452	7,660	46.6	8,048	△ 389	95.2

財産収入が15万4千円の減となった。これは財産貸付収入の減によるものである。繰越金は20万8千円の皆減となった。

2. 歳 出

決算額は7,659,587円で、前年度(8,048,349円)と比較すると388,762円の減少となり、予算現額に対する執行率は46.6%である。各項別における歳出の状況は表2のとおりである。

[表 2] (単位:千円・%)

区 分	元年度			30年度 決算額	増 減	前年度比
	予算現額	決算額	執行率			
議 会 費	1,101	986	89.6	949	37	103.9
総 務 管 理 費	7,031	6,319	89.9	7,099	△ 780	89.0
選 挙 費	8,056	355	4.4	0	355	皆増
予 備 費	264	0	0.0	0	0	-
計	16,452	7,660	46.6	8,048	△ 389	95.2

総務管理費は前年比78万円の減となった。これは需用費5万7千円の増であったが工事請負費59万4千円の皆減、積立金36万3千円の減などによるものである。

財産区議会議員の任期満了による選挙があったため、選挙費が35万5千円の皆増となった。

第 7. 財産に関する調書

1. 公有財産

(1) 土地

元年度末現在高は 118,514.9 m²であり、元年度中で 499 m²増加した。
増加の理由は、ため池・堤の寄附を受領したためである。

(2) 建物

元年度末現在高は 325 m²であり、元年度中の増減はなかった。

2. 備品

元年度末現在高は 0 台であり、元年度中の増減はなかった。

3. 基金

年度当初の現在高は 3,078 万 9 千円で、元年度は積立金 402 万 3 千円であったが、基金取崩し金が 363 万 7 千円あったことにより、年度中で 38 万 6 千円の増となり、元年度末残高は 3,117 万 5 千円であった。